

平成 2 8 年度 南区地域福祉アクションプラン
福祉分野別計画 進行管理表

- 児童・子育て支援 1 ~ 3
- 障がい者福祉 4 ~ 7
- 高齢者福祉・介護支援 8 ~ 1 0
- 地域づくり 1 1 ~ 1 3

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分科会)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	子育て世代が孤立しないまちづくり			
課題	子育て相談、支援に関する情報提供	・健診や育児相談会、保健師や助産師による訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報提供や相談の場をつくる。 ・情報誌やホームページの活用によって情報を提供する仕組みを構築し、子育ての相談、支援に関する情報提供を強化する。 ・乳幼児健診の場を、子育ての相談や仲間を見つける機会として活用する。	①	多様な手法による子育て情報発信
	子育て支援制度の充実		②	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	同世代の親同士の意識づくり		③	訪問・相談事業の強化

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区版子育て応援冊子「みんないっしょ」の内容を更新し、アウトリーチ支援(子育て情報のお届け訪問)の際の情報提供に活用する	南区健康福祉課	訪問回数	未定	年10回	7回	B	27 ~ 32
①	健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児各400回	産婦 延393回 新生児等 延542回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
②	NPプログラムの開催(「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	2回, 24人	2回, 24人	A	27 ~ 32
②	BPプログラムの開催(初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課 児童館等	開催回数・参加者数	未定	8回, 160人	8回, 82人	B	27 ~ 32
②	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる、子育て中の親子が気軽に参加し、支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	30回, 750人	30回, 721人	A	27 ~ 32
②	子育て支援リーダー等によるアウトリーチ支援(アウトリーチ型支援研修を受講した子育て支援リーダーや主任児童委員が、子育て家庭を訪問し、地域情報を届けたり、悩みを聞いたりする。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	訪問回数	未定	10回	股関節検診での周知とアンケート実施	B	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○子育て相談、支援に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供した。 <p>○子育て支援制度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPプログラム、BPプログラム、子育て広場等を実施したり、健診時には悩みを相談できる場をつくって、母親が孤立しないよう支援した。 <p>○同世代の親同士の意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会等を仲間づくりの場として活用できている保護者も多い。 NPプログラムやBPプログラムに参加した方からは、「参加して良かった」という声が多く、同じ月齢の親同士の良い関係ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BPプログラムが全市展開事業となり、開催回数が増え、育児不安・孤立感の解消や母子の愛着関係の形成につながっている。今後も参加への呼びかけやPRが必要である。 ・アウトリーチ支援のための体制づくりを行い、周知を兼ねてアンケート調査を行った。アンケート結果では「良い取り組み」「利用したい」などの回答が70%以上であったが、実際の利用の申し込みはなかった。引き続きPRを行っていくが、どうやったら申し込みをしてもらえるかが課題である。

評価	A 概ね90%達成
指標	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分科会)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域で支えるゆとりを持った子育てができるまち			
課題	父親や家族の育児への参画	・子どもを連れて参加できる地域活動を増やすなど、親しい関係をつくる。 ・子育て関連の講座の開催にあたっては、保育付きの機会を増やす。 ・ボランティアの育成と活動を支援する。	①	子育て中の親同士の交流促進, ネットワークづくり
	地域からの声かけによる育児支援		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育てサロンやサークル活動などへの支援		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー, ボランティアの育成と活動の支援

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	NPプログラムの開催 (「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	2回, 24人	2回, 24人	A	27 ~ 32
①	BPプログラムの開催 (初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課, 児童館等	開催回数, 参加者数	未定	8回, 160人	8回, 82人	B	27 ~ 32
①	サロン交流会 (子育て中の親子の不安やストレスの解消, 情報交換の場として気軽に集うことのできる「親子の居場所」を支援し, 活動費の一部を助成するもの。)	南区社会福祉協議会	開催回数, 参加団体数	未定	年2回	2回実施 1回目4団体 2回目3団体	B	27 ~ 32
①	子育て広場交流会の開催	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回, 15組	1回, 19組	A	27 ~ 32
①	安産教室への父親参加を継続, 家族・地域で子育てにつなげる	南区健康福祉課	開催回数	未定	1クール3回X年3回	1クール3回X年3回	A	27 ~ 32
			父親参加人数	未定	15人X3回	延33人/3回	A	27 ~ 32
②	各地区の多世代交流事業の開催	各地区	各地区別計画で管理, 評価	未定	未定			27 ~ 32
③	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる, 子育て中の親子が気軽に参加し, 支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	30回, 750人	30回, 721人	A	27 ~ 32
④	子育て支援リーダーの育成	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	支援リーダー数	20人	1人増	2人増	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○父親や家族の育児への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の安産教室に, 各回定員15人のところ1回あたり平均11人の父親参加があり, 育児への参画の第一歩となっている。 ・安産教室や健診等を利用して, 父親や家族の育児参加を啓発した。 <p>○地域からの声かけによる育児支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援リーダーによる子育て広場は, 参加者から好評価を得ており, 参加者も増加している。 <p>○子育てサロンやサークル活動などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会を2回開催し, 1回目は昼食会を開催し, 意見交換を行い, サロン同士の悩み・情報交換・2回目の開催内容等も話合った。2回目は親子ヨガを開催し, 親子でリラックスした時間を持つことができた。 ・各サロンの活動チラシを作成し, 子育て支援センター・児童館で掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場, BPプログラムなどの事業を継続して実施できるように, 子育て支援リーダーやボランティアがさらに増えるよう育成し, 確保することが課題である。 ・育休後の職場復帰等でサロン継続が困難な団体が増え, サロン数も減少傾向にある。 ・南区では, 子育て支援センターの充実もあり, 団体化につながらない。 ・今後は, サロン同士の交流だけでなく, 子育て支援センターを交えた交流が必要。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援分科会)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	小項目	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
課題	子どもに関する悩みについてアドバイス	・育児についての悩みの相談・支援体制を強化。 ・保育園の園開放や児童館のイベントなどを通じて情報発信に努め、保護者同士の交流会の機会をつくる。 ・中高生を対象とした思春期教育により正しい知識の定着を図る。	①	子育て中の親同士の交流促進, ネットワークづくり
	子どもが安心して遊べる環境		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー, ボランティアの育成と活動の支援
			⑤	児童館・子育て支援センターによる子育てネットワークの構築
			⑥	訪問・相談事業の強化
			⑦	中高生を中心とした思春期教育の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区版子育て応援冊子「みんないっしょ」の内容を更新活用し, アウトリーチ支援(子育て情報のお届け訪問)の際の情報提供に活用する	南区健康福祉課	訪問回数	未定	年10回	7回	B	27 ~ 32
①	健診や育児相談会, 訪問などの機会を利用し, 子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児 各400回	産婦 延393回 新生児等 延542回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場各12回	A	27 ~ 32
②	子育て広場の交流会の開催	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回15組	1回, 19組	A	27 ~ 32
③	ファミリー・サポート・センターによる子育て世帯の支援, 事業PR	南区健康福祉課, 南区社会福祉協議会	登録者数, 提供会員数	未定	登録者数60 提供会員数30	登録者数97名 提供会員数28名	B	27 ~ 32
④	既存の保育サービスの拡充と新たなサービスの検討	南区健康福祉課		未定				27 ~ 32
⑥	子育て支援リーダー等によるアウトリーチ支援(アウトリーチ型支援研修を受講した子育て支援リーダーや主任児童委員が, 子育て家庭を訪問し, 地域情報を届けたり, 悩みを聞いたりする。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	訪問回数		10回	股関節検診での周知とアンケート実施0回	B	28 ~ 32
⑦	思春期教育の実施	南区健康福祉課・中学校・高校	開催回数	未定	高校1回, 中学校8回	高校1回, 中学校7回	A	27 ~ 32
			参加人数	未定	高校80人, 中学校400人	高校77人, 中学校393人	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○子どもに関する悩みについてアドバイス 健診や育児相談会, 訪問などの機会に育児支援を強化している。</p> <p>○子どもが安心して遊べる環境 児童館や子育て支援センターの利用者から直接意見をいただき, 改善できるものは改善を行い, より利用しやすい環境整備に努めた。</p> <p>○子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分 健診や育児相談会, 訪問などの機会に周知している。 ファミリーサポートセンターによる子育て支援の事業をホームページと区社協だよりで情報提供し, 説明会を年1回開催した。</p>	<p>・健診や新生児訪問は, ほぼ全員に実施しているが, 育児相談会や子育て支援センター等は希望者の参加になる。 相談ができずに一人で悩んでいる人がいないようにしていくことが今後必要。</p> <p>・ファミリーサポート会員数は増加したが, 提供会員数が減少している。 提供会員の中でも実際に活動している人に偏りがある。 依頼会員に向けても提供会員への登録・活動を働き掛ける必要がある。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分科会)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	福祉サービス利用の相談体制充実		番号	内容
課題	相談支援事業者等の周知	・関係する専門機関が情報を共有し, 相談する人の立場に立った相談や情報の提供が図られる相談支援体制の推進 ・行政や社会福祉協議会等の広報を利用して, 相談窓口の周知	①	相談支援事業の強化
			②	基幹相談支援センターの充実
			③	多様な手法による障がい福祉制度の周知

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
③	区だより掲載	南区健康福祉課	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	社協だより掲載	南区社会福祉協議会	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
①②	相談支援に関する研修会開催	南区健康福祉課, 基幹相談支援センター秋葉	実施数	5回	1回	1回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○相談支援事業者等の周知。</p> <p>・12/4号区だより, 9/25号社協だよりに基幹相談支援センター秋葉についてを掲載。 また, 研修会については, 2/5白根健康センターにて, 民生委員を対象に基幹相談支援センター秋葉の周知の研修会を行い, 40人の参加があった。</p>	<p>・引き続き周知を図っていきたい。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分科会)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	障がいのある人と地域が交流できるまち		番号	内容
課題	地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり	地域で行われているまつりやイベントなどの交流の場に障がいのある人が積極的に参加できるよう地域住民が呼びかけるなど、受け入れ環境の整備の推進	①	民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化
			②	小中学校の支援学級に対する情報提供

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①②	南区自治協議会、校長会へ情報発信	南区健康福祉課	情報発信数	6回	1回	1回	A	27～32
①	地区社会福祉協議会行事への参加依頼	南区社会福祉協議会	情報発信数	6回	1回	1回	A	27～32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり。</p> <p>・地域の行事等で交流の機会を広げてもらうため、自治協議会へ情報提供の依頼を行い、また、区内の小・中学校を通し生徒への周知をしてもらうよう依頼をした。 また、地区社会福祉協議会の行事への参加依頼を行い、27年度より1地区増えた3地区が昼食会、多世代昼食会を実施した。</p>	<p>・障がい者が地域の行事に参加できるよう、今後も情報発信を行う。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉分科会)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	自立支援体制の充実		番号	内容
課題	地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進	南区障がい者地域自立支援協議会や南区地域福祉ネットワーク会議を通じ, 関係機関における情報共有を進めることで, 生活課題の早期発見や早期支援に努める	①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営
			②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営	南区健康福祉課	開催回数	24回	4回	4回	A	27 ~ 32
②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営	南区保健医療福祉のつながりを深める会	開催回数	12回	2回	2回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進。</p> <p>・自立支援協議会では, 平成28年度に6つの地域課題を抽出し, 28, 29年度で進行管理を行いながら情報共有を行っていく。また, 地域福祉ネットワーク会議では, 9月と2月に研修会を開催し, 他業種のつながりを深めることができた。</p>	<p>・今後も地域の課題等について情報共有が必要。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表(障がい者福祉分科会)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	わかりやすい福祉情報の提供		番号	内容
課題	障がいのある人が安心して外出する、バリアフリー情報が不足している	福祉情報マップを作成し、公共施設や福祉施設等に設置する	①	福祉情報マップの作成と活用
			②	福祉新聞の検討

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
②	福祉新聞の検討	アクションプラン推進委員会、南区健康福祉課	検討会の開催数	4回	1回	1回	A	27～29

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○障がいのある人が安心して外出する、バリアフリー情報が不足している。</p> <p>・福祉新聞の検討について、誰が作成するか、スタッフも新聞発行も予算がなく、課題があるとの検討結果であり、平成29年度中に福祉新聞を発行するかの判断を行う。</p>	<p>・情報の発信方法。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齡者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齡者・介護者を支えあうまちづくり	地域で緩やかな見守りができるような取り組みづくりと高齡者・介護者の支援体制の周知	①	地域全体で高齡者を見守る体制の構築
課題	地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子がわからない)		②	高齡者の相談窓口「地域包括支援センター」の周知
	地域包括支援センターの認知度		③	介護者の支援
	介護教室の参加人数		④	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	緩やかな見守りを行う取り組み支援	健康福祉課・南区社会福祉協議会・地域住民等	地域支援数	地域に合わせた支援	要望の数	2回	A	29 ~ 29
②	高齡者・介護者支援体制の周知(地域包括支援センター・介護教室)	健康福祉課 包括介護教室受託事業所	発信数	行事の度	行事の度	包括 12回(毎月) 教室 8回(開催毎)	A	27 ~ 32
③	介護教室の受託事業所の開拓	健康福祉課	委託事業者数	1ヶ所～3ヶ所	3ヶ所継続	3ヶ所継続	A	27 ~ 32
④	区・圏域ケア会議を利用したネットワークの支援	健康福祉課 包括	開催回数	毎年開催	区域 2回 各圏域 1回	区域 0回 圏域計 4回	C	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子がわからない)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨曾根徘徊模擬訓練 住民が徘徊について理解と関心を持ち、地域で声かけをすることで、徘徊高齡者の早期発見、早期通報につなげる意識の醸成を図ることができた。 ・白根北部地区見守り体制構築 包括圏域ケア会議より、見守り体制構築のための動きを、南区社協・包括・南区役所で実施中。 ・区域でのケア会議に代わり、地域の生活支援検討を担う協議体立ち上げ支援を実施。 <p>○地域包括支援センターの認知度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回「南区だより」に高齡者の相談窓口として情報を掲載。 ・茶の間訪問時やさわやかトーク宅配便開催時にPR。 ・医療機関等にポスターを掲示。 ・区内スーパーで行う高齡者出張相談会開催時にのぼり旗を使用してPR。 <p>○介護教室の参加人数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活圏域毎(3圏域)に開催継続。 ・H28実績:実施回数 計8回 参加延人数 66人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力の再構築が求められており、一部の地域では、何とかしようという動きがあるが、全体的にみると、まだ、互助による助け合いの意識醸成が不足している。住民主体の見守りや支え合いのできる自治会・町内会を増やす必要がある。 ・地域包括支援センターの認知度は少しずつあがってきてはいるものの、まだ不十分な状態である。 ・介護教室も各日常生活圏域で開催が可能となったが、参加人数にばらつきがあり、ニーズにあった内容とすることや、周知方法を再考する必要がある。 ・徘徊者の存在は気づいているが、なかなか声をかけられない。 ・意識の薄い人への周知活動が必要。 ・通報を何処へすればよいのか迷ってしまう。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護者支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	高齢者の健康づくり・介護予防の推進		番号	内容
課題	生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況	・健康の維持・増進のため、健(検)診受診率の向上や、子どもを含めたより良い生活習慣の確立に向け、地域における健康づくりの取り組みを進める。 ・保健会と自治会、コミュニティ協議会など関係機関と連携し、継続的に活動を展開。 ・健康づくりは、運動・食事・休養・こころの健康等様々な分野に及ぶため食生活推進委員、運動普及委員とも連携した健康づくりに取り組む。	①	高齢者の健康づくりと介護予防の推進
	生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される		②	地区保健会活動の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	地区での健康づくり講座のフォロー講座実施(ウォーキング講座)	健康福祉課 地域住民	講座開催数	10回以上	2回	2回	A	27 ~ 32
①	ミニドック型集団健診の実施とコミ協での申し込み受付	健康福祉課 地域住民	特定健診受診者数	年4,000人	4,000人	2,971人	B	28 ~ 29
①	はかろう体重！大作戦の実施	健康福祉課 地域住民	カード配布数	10,000枚	5000枚	7000枚	A	28 ~ 29
②	地区での健康づくり講演会の実施	健康福祉課 地区保健会	講演会開催数	40回以上	10回	10回	A	27 ~ 32
②	生活習慣病予防事業「元気アップ講座」の開催	健康福祉課 地区保健会	講座開催数	70回以上	14回	16回	A	27 ~ 32
②	市民活動支援事業(保健会だよりでの啓発や世代間交流など地区の実情にあった事業実施)	健康福祉課 地区保健会	事業実施数	60回以上	12回	14回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診、各種がん検診は、低い状況。 ・ミニドック型集団健診の新規実施により、特定健診受診者は増加しているが目標値までは達しなかった。</p> <p>○生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される。 ・はかろう体重！大作戦の新規実施により、区民の健康づくりへの気運は少しずつ高まってきた。事業のPRをコミュニティ協議会と一緒に実施し、目標を上回るカード配布となった。</p>	<p>・ミニドック型集団健診及び医療機関で受診する施設健診(特定健診)の受診をすすめるために、さらなるPRが必要。</p> <p>・生活習慣の改善では、はかろう体重大作戦の実施をコミュニティ協議会を中心にPRしたが、まだまだ、区民全体の取り組みとはなっていないため、今後はコミュニティ協議会の他に、学校等を含め区民へ広く周知し、参加を呼び掛けていく必要がある。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護者支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	認知症の予防と対策		番号	内容
課題	認知症高齢者の増加	認知症予防と認知症の正しい理解を広める	①	認知症予防のための脳の健康教室の開催
	認知症の理解		②	認知症の理解を深め, 介護者を支える地域づくり

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	認知症予防の教室(楽しく脳力アップ塾)	健康福祉課	講座実施回数	1講座	1講座	1講座	A	27 ~ 28
②	認知症サポーター養成	健康福祉課 キャラバンメイト	周知回数	2回/年	2回	3回	A	27 ~ 32
②	キャラバンメイトのネットワークづくり	健康福祉課 キャラバンメイト	連絡会開催数	1回/年	2回	5回	A	27 ~ 32
②	認知症カフェの開催	地域包括支援センター, 白根健康センター, NPO法人ゆうわ	開催回数	4回/年	6回	6回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○認知症高齢者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度, 地域包括支援センターやボランティアによる認知症カフェ立ち上げ支援後, 開催が定例化される。次年度は, 1回/月の開催予定。 ・キャラバン・メイト未経験者と経験者を繋げる活動を5回実施したほか, 区よりメールによる情報発信を18回実施し, サポーター養成講座開催の助けに繋がった。 <p>○認知症の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座について, 地域包括支援センター主催の会議を通じ, 各圏域ごとに周知を実施した。また, 昨年度より講座を多く開催した。(H27年:22回, H28年:24回)。一般市民の他, 小学校, 高校, 警察などで行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ開催定例化したが, 運営メンバーと参加者の固定化が伺える。運営方法の検討が必要。 ・軽度認知症も含め, 認知症高齢者は確実に増加しており, 地域での見守りや, 専門職による初期集中支援の対応が求められている。認知症初期集中支援チーム(市モデル事業)の動向の注視を要す。 ・より多くの地域の方々にサポーターとなってもらい, 認知症を正しく理解するとともに認知症の人やその家族を温かく見守る体制が必要。そのための講座開催回数の増加を図る必要がある。 ・キャラバン・メイトの自主活動が少ない。連絡会事務局も現在区が担っている。事務局移行も含めた活躍方法を, 立ち上げた連絡会を通して定期的に検討していく必要がある。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分科会)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	小項目	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
私たちが支えあい、助けあうまち	地域のボランティア活動の場発信と活動支援	・ボランティア活動の情報集約とネットワーク化 ・ボランティア養成と活動の場充実 ・ボランティア同士の情報交換の場設置による相互の理解、交流の深化	①	白根健康福祉センターのボランティア活動の拠点化
			②	南区版ボランティア情報誌の発行
			③	ボランティア情報の集約とネットワーク化
			④	ボランティア養成講座の開催と活動の場紹介
課題	ボランティア団体の連携が弱い		⑤	福祉教育の充実
	次世代のボランティア育成		⑥	災害ボランティアの育成
	あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成			

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	ボランティアルーム利用方法の検討及び利用性の向上	センター管理者 ボランティア・市民活動センター	連絡会の開催回数 (年2回)	11回	1回	2回	A	27 ~ 32
		健康福祉課	センター等から報告(随時)	随時	随時	重複利用団体との調整	A	27 ~ 32
②	ボランティア情報誌(紙)の発行	ボランティア・市民活動センター	発行回数(年2回)	11回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	ボランティア団体(代表)の交流会開催による情報集約、連携体制構築	ボランティア・市民活動センター	交流会開催回数(年2回)	11回	1回	1回	A	27 ~ 32
④	講座、研修会(公民館主催を含む)の中で紹介	ボランティア・市民活動センター 公民館	講座等開催回数(年4回)	24回	4回	6回	A	27 ~ 32
⑤	区内小中学校の総合学習の時間を利用した福祉教育の推進・企業向け福祉教育	ボランティア・市民活動センター 小中学校、地元企業	実施回数(年16回)	96回	16回	20回	A	27 ~ 32
⑥	災害ボランティアセンター設置訓練開催、災害ボランティアセンター検討委員会開催	ボランティア・市民活動センター、災害ボラセン検討委員	・訓練(年1回) ・検討委員会(月1回)	72回	12回	訓練2回 検討委員会 8回	B	27 27 ~ 32 29

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○ボランティア団体の連携が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流会による情報共有や情報収集を行うことで連携体制の構築を図った。 情報紙の作成、配布、ホームページ掲載、社協便り掲載によりボランティア活動の発信が行えた。 <p>○次世代のボランティア育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアきっかけ作り講座の開催によりボランティアの育成を図った。 公民館との情報共有で新たなボランティア団体の登録、育成が行われた。 <p>○あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校における福祉教育の件数の増加。 大人向け福祉教育(車いす体験、ブラインドサッカー体験)を行うことで、支えあいの意識を高めた。 災害ボランティアセンター設置訓練に地域の参加があった、センターの啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアが定期的に顔を合わせることのできる時間を作る。(ボランティアサロンの開催など。) 南区のボランティアニーズにあったボランティア養成講座の開催。 子どもだけでなく大人に対しても福祉教育の場を提供していく。 災害ボランティアセンターの役割を地域住民に理解してもらうよう地域を巻き込んで訓練を開催する。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分科会)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	小項目	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
課題	私たちが支えあい、助けあうまち	・徒歩で参加できる範囲内にある茶の間等のPR方法の検討, 広報 ・世代間交流を図りながら茶の間等の参加者や支援者の勧誘方法を工夫する	①	地域の茶の間とサロン交流会開催
	地域の茶の間・ふれあいきいきサロン活動の支援		②	地域の茶の間とサロン運営研修会開催
	傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。		③	活動紹介や内容メニューを記載した冊子作成
	10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。		④	地域の茶の間とサロンの立ち上げ支援
	サロン・お茶の間独自開催できないところがある。		⑤	地域の茶の間とサロンでの世代間交流会の開催
	参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要)			

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①, ②	各種講座やサロン交流会及び研修会の実施	南区社会福祉協議会	ボランティア登録者数増	30名増	・交流会年1回 ・研修会年1回	交流会 1回 研修会 1回	A	27 ~ 32
②	男性を対象にした交流会の開催	南区社会福祉協議会 協力自治会	交流会開催	年2回	年2回	実施なし	D	27 ~ 32
③	・南区サロン・お茶の間マップを年1回社協だよりに掲載(27年以前からの継続) ・サロン活動内容の広報 ・各お茶の間(サロン)会場に冊子を設置し、随時内容を更新	南区社会福祉協議会	・サロンお茶の間マップを社協だよりに掲載(27) ・サロン活動内容等を広報誌に掲載 ・冊子は各お茶の間に設置	・広報紙掲載 ・6年で冊子作成1回	・広報紙掲載 ・冊子内容更新	社協広報紙にサロン活動団体一覧を掲載	C	27 ~ 32 28
④	地域に合った茶の間づくり支援	地域の茶の間等 社会福祉協議会	立ち上げ要望に応じて相談	未設定	未設定	4カ所	B	28 ~ 32
④	常設型モデルハウスの設置	健康福祉課 包括ケア推進課 社会福祉協議会 協議体 住民	モデルハウスの設置	1カ所	1カ所	1カ所	A	28 ~ 32
⑤	世代間交流会の開催(年2カ所)	地域の茶の間等 社会福祉協議会	新規交流会開催回数	10カ所	2カ所	0カ所	D	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大多数の茶の間の参加者は、女性が多く、男性の参加がほとんどない状況は変わらない。 ・男性の参加がある茶の間は、代表者自身が男性の茶の間。 ・自力で移動が困難な人を車に乗せてあげた時の万が一の事故の恐れがあり、進んでいない。 <p>○10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代替わりは進んでいない。代替わりには参加者の理解や協力が必要で時間がかかる。 <p>○サロン・お茶の間独自開催できないところがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターや地区担当保健師、社協地区担当が関わっているところで、自主開催できないところがあり、参加者の年代によるところが大きい。 <p>○参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区社協で助成できる予算がなく、市助成のみ。参加者増には至らず、助成金の対象とならない助成金がなくても活動している茶の間がある。自治会の理解と協力も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性参加者のなかに男性は参加しにくい。男性に限らず、世代を超えた交流が出来る活動を検討する。 ・代替わりについて、タブーとせず、参加者が一緒に考える雰囲気づくりをする。 ・趣味が同じもの同士が気軽に参加できるなど、参加者が思い思いの過ごし方で過ごせる茶の間・サロン作りをする。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成28年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり分科会)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい, 助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	災害時要援護者支援体制の充実		番号	内容
課題	災害時要援護者支援者名簿制度について, 災害時要援護者登録対象者への周知不足 地域の助け合い意識の向上	要援護者名簿を活用した地域住民による助け合いの体制づくり	①	自主防災訓練を通しての要援護者支援訓練の実施
			②	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	各自主防災会での防災訓練における要援護者支援訓練の実施	各自主防災会	訓練実施率	100%	40%	60.0%	A	27 ~ 32
①	災害時要援護者支援者名簿と災害時要援護者登録対象者の確認	自治会 各自主防災会	区が名簿更新時に自治会等へ確認要請する。	全団体	全団体	全団体	A	27 ~ 32
①	地域の災害時要援護者登録対象者への意識付け	自治会 各自主防災会	自治会研修会で確認(年1回)	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
②	高校生防災ボランティア育成研修会の開催	南区総務課 白根高校	研修会開催回数(年2回)	10回	2回	2回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○災害時要援護者支援者名簿制度について, 災害時要援護者登録対象者への周知不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年自治会・町内会長の説明会で自治会・町内会長の交代する場合には, 災害時要援護者名簿をしっかりと引き継ぐよう説明している。 <p>○地域の助け合い意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自主防災会の自主防災訓練での要援護者支援訓練の実施(23自主防災組織中14組織が実施) 各地域の自主防災訓練では, 要援護者支援訓練の実施率は, 60%であるが, 区の総合防災訓練で, 必ず要援護者支援訓練を取り入れ, 確認方法等は自主防災会に任せる形で実施し, 要援護者対策に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会・町内会の役員交代時の名簿の引き継ぎが重要となるため, 説明会等で, 引き続き周知していく。また, 各地域での自主防災訓練時の要援護者支援訓練の実施率に年度によってばらつきがあるため, 実施率向上に向けて啓発に努める。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず